

動物愛護も曲がり角？

捨て犬に手を焼く英国

大好きな英国が犬に手をやいている。二年前に登録制度を廃止したあと捨て犬が増え、飼い主のモラルも低下したのか、町の中はワンだらけ。犬にかまれる事故も増えた。七人に一匹の割合で犬を飼い、親密な付き合いを自負してきた社会が、曲がり角にいる。

を問う裁判が大きな関心を集めている。英国の犬は約八百万匹。さらに毎年約五十万匹ずつ増えているといふ。年間二十五万人が犬にかまれ、車でひく事故もあわせると年間被害額は約百七十五億円とか。

そして、ワン。散歩中にワンの始末をしている飼い主にはまずお目にかかれない。二年前に犬の登録制度がなくなつてから、よりひどくなつたという人が多い。登録制度は一八八五年から続いていたが、登録料が三十七・五ポンド(約九十五円)と低く、持ち出しに政府が嫌気さして廃止、飼い主のモラルに頼ろうとした。

動物愛護団体などはより強い

クリスマスに子犬を贈るのが盛んだが、習性にはどつと捨てられる。大きくなって、可愛くなくなるのだ。

クリスマスに子犬を贈るのが盛んだが、習性にはどつと捨てられる。大きくなって、可愛くなくなるのだ。

近年、若い男性の間で大型のどう猛な犬を飼うことが流行し、管理がさんなため、社会問題化している。昨年二月、ロンドンの小学校の運動場でロットワイラーというどう猛な犬が子どもを追いかけて回して、四人に大けがをさせ、飼い主の責任



「フンには〇〇」という公園のポスター

ロンドン市内で



捕獲された犬は治療や食事を与えられ、飼い主を待つ

ロンドンのパタシー犬の家で



登録制度の復活を政府に迫り、最近、自主登録をスタートさせた。登録料二十五ポンド(約六千三百五十円)、年間費用十ポンドと、管理費用を減らす額を払い、登録の際、番号を記憶させた磁気チップを簡単な手術で首に埋め込むというもの。犬の管理といふ犬、捨て犬の「リサイクル」

飼い主の自覚を狙っているが、反応は今一つ。「登録しなくても見られるテレビの受信登録がうまくいかないのと同じ」の声が聞かれる。

ロンドン市内・パタシーという場所に「犬の家」という、迷子犬、捨て犬の「リサイクル」

施設がある。市内で捕まった犬がすべて集められる。毎週約四百匹が収容され、約一五％が運よく持ち主に再会して戻っていく。約六〇％が訪れる人に買われるので、「処理」数は少ない。この施設は一八六〇年以來、すべて寄付で運営されているという。大都市には同様の施設がある。

英国的モラルがまた衰えていない象徴でもある。が、ここでも捨て犬の増加に悩まされて施設の拡充が必要になり、どう猛犬の増加にも困っている。

二十七年もここで働いているF・ハムさんも「クリスマスの前ぐらいは、もう子犬を売らないようにしてもらわないと……」と、時代の変わりようを嘆いている。

(ロンドン) 竹内敬 特派員、写真も